

☆メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

○日時：12月7日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児 ○定員：6組
《11月のおはなし会で使った本》

『おふとんかいたら』（大型絵本）かがくいひろし/作 ブロンズ新社 2019

『ちがうでしょ』 得田之久/脚本 山本祐司/絵 童心社 2019

『どんぐりぼとん』 千世繭子/脚本 こばやしえりこ/絵 童心社 2011

『ねずみのいもほり』（大型絵本）山下明生/作 いわむらかずお/絵 チャイルド本社 2006

★第3回新刊児童書閲覧会

○日時：令和3年12月15日（水）～12月19日（日）9：00～17：00

○会場：山口県立山口図書館 第2研修室（こどもとしょじつ 3F）

○対象：市町立図書館職員、学校図書館関係者、ボランティア関係者、子どもの本に関心のある方

○定員：一人1時間、各時間帯10名程度（要申込み）

○申込方法：FAXまたは電子メール（HP上の参加申込書をダウンロードしてご利用ください。）

◎申込み・連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【お知らせ】

山口県立山口図書館では、10月1日（金）から電子図書館の運用を開始しています。利用案内はこちらから→
<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary>



【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『ちんぷいぷい』 谷川俊太郎/ぶん 堀内誠一/え くもん出版 2021.10 ¥1200

きつねの手品師が青い帽子に布をかぶせると…？「ぱっ」どんぐりがいっぱいかくれてた！りすたちは大喜び。うさぎがやってきて「まだなにかかくれてるかな？」と興味津々。「ぱっ」と布をとると、りんごがみつつでてきたよ！他の動物たちも次々とやってきて…。いたずら顔のきつね、うれしくてにんまり顔のうさぎなど、動物たちの表情が生き生きと描かれた思わず笑顔になる絵本。

<絵本-3, 4歳から>

『せんろはつづくにほんいっしゅう』 鈴木まもる/文・絵 金の星社 2021.9 ¥1300

東京を出発して日本を一周する旅に出よう！新幹線や電車や貨物列車など、日本全国の代表的な鉄道車両と500以上の路線を躍動感あふれる絵で紹介。日本を12の場面にかけて、そのページが日本のどのあたりにあるのか左下にある地図で確認でき、各地を走る電車が駅名と共に描かれる。ご当地駅弁や鈴木まもるさんならではの都道府県の鳥も細かく描きこまれ、隅々まで楽しめる絵本。

<絵本-5, 6歳から>

『ほんやねこ』 石川えりこ/作 講談社 2021.1 ¥1600

ある日の夕暮れ、店を早じまいしてお散歩にでかけた本屋のねこは、窓をひとつ閉め忘れた。そこに強い風がふきこみ、棚の絵本がバラバラとめくられて、物語の人たちを窓の外へつれていってしまう。ねこはお散歩をしながら物語の人たちを探すことに。ピノキオやシンデレラなど、おなじみの物語の登場人物がたくさん出てきてお話を知らなくても楽しめ、次の読書につながる楽しい絵本。

<絵本-小学校低学年から>

『オノモロンボンガ』 アルペナ・イヴァノヴィッチ=レア/再話 ニコラ・トレーヴ/絵 さくまゆみこ/訳 光村教育図書 2021.9 ¥1400

昔、動物たちが川のほとりで暮らしていた。ある年雨が降らず飲む水がなくなってしまう。ある晩カメが美味しそうな実のなる大きな美しい木の夢をみた。その木はずいぶん遠いところにあり、木の実をもらうには、ややこしい木の名前を覚えて名前を呼んであいさつしなければならぬと聞く。カメはその木を目指して旅立つが…。「オノモロンボンガ」は木の名前。愉快なアフリカ南部の昔話。

<絵本-小学校中学年から>

『よあけ』 あべ弘士/作 偕成社 2021.10 ¥1500

「黄金の9月」とよばれる美しい季節。私は漁師のじいさんと舟に乗って毛皮を売りに町へ。夜じいさんは酒を飲みながら、トラやイノシシの話を私に語ってくれた。夜が更け、草の上に横になり見上げると満天の星に横切る天の川。朝目を覚ますと…。美しく雄大な自然の描写と動物たちの表情やたたずまいに思わず引き込まれる。大自然の中でむかえる夜明けをドラマチックに描いた絵本。

『おじいちゃんのねがいごと』 パトリシア・マクラ克蘭/文 クリス・シーマン/絵 なかがわちひろ/訳 光村教育図書 2021.9

¥1400

おじいちゃんは、私と弟のミロに鳥のことをたくさん教えてくれた。生まれ変わったら何になりたいの？と聞く私に「そのときがきたらわかるさ」と答えたおじいちゃん。やがておじいちゃんは目がよく見えなくなり、窓辺のベッドで過ごすように…。鳥を愛する祖父との日々、そして別れ。独特の質感の絵が美しく味わい深い。鳥を通じて家族のつながりを叙情豊かに描いた心に沁みる絵本。

<絵本—中学生から>

『アンディ・ウォーホルのヘビのおはなし』 アンディ・ウォーホル/著 野中邦子/訳 河出書房新社 2021.8 ¥2200

ポップ・アーティストとして今なお愛され続けるアンディ・ウォーホルが広告デザイナー時代に皮革製品会社のために作成した絵本。クレオパトラからココ・シャネルまで、様々な時代のセレブたちを着飾ったりもてなしたりするヘビの物語。大胆な色使いや個性的なデザインが後の彼自身の成功を予感させている。原画の目録付き（英語）。2017年発行の新装版。

<読み物—小学校低学年から>

『物語王さまとかじや』 ジェイコブ・ブランク/文 ルイス・スロボドキン/絵 八木田宜子/訳 徳間書店 2021.9 ¥1700

ある国の「えらいホレシヨイ王」は8歳の王さま。幼いうえにあんまり賢くはないが、身の回りにありとあらゆる大臣がいて、王さまの行動を指示してくれていた。ある日、馬に乗っていた王さまの冠を、からすがくわえて木の上に。王さまはからすを驚かせて冠を取り返そうと、大声自慢のかじやを連れてくるが…。一人読みに移行するのに適した挿し絵たっぷりの物語本。

<読み物—小学校中学年から>

『体育がある』 村中李衣/作 長野ヒデ子/絵 文研出版 2021.9 ¥1300

小4のあこは体育が苦手嫌い。跳び箱も鉄棒も水泳も何もかも。ママはそんなあこを、「練習、練習」、「できないのは覚悟の問題」と熱心に鍛えてくれる。ばあばがやって来た日の夜、家でマット運動の練習をしていたあこは、うっかり飾り棚のガラスに足を突っ込んでしまい…。作者は山口県出身の児童文学作家。絵本作家によるユーモアたっぷりの挿絵が楽しいお話。

<読み物—小学校高学年から>

『ぼくらのスクープ』 赤羽じゅんこ/著 講談社 2021.8 ¥1400

小5のイダッチと、いつも魔王と書かれたTシャツを着ていてパソコンが得意で変わり者の「魔王」は、新聞系のペア。気の合わない二人だったが、ピンポンダッシュの犯人に間違われた濡れ衣を晴らすための取材や、学級新聞の意見箱に入っていた入選作文盗作疑惑の解明、自転車接触事件の真相等、学級新聞作りに奔走する。巻末には、完成した新聞『Go ichi times』付き。

<読み物—中学生から>

『ぼくのまつり縫い 手芸男子と贈る花』 神戸遙真/著 偕成社 2021.10 ¥900

ぼく、針宮優人は中学3年生。1年生の時に悩んだすえに入部した被服部だが、部長として中学校生活最後の文化発表会に向けて製作に励んでいる。夏休み前、深く考えずに書いた進路希望調査で、担任の先生から「趣味で高校を決めるのはどうかな。」と言われてしまう。ぼくにとって、手芸とは…？ 中学校入学から始まった手芸男子シリーズ、優人の進路決定までが描かれた第3弾。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『はじめてのやさい プランターでも畑でもじょうずにできる! ①ミニトマト』 藤田智/監修 理論社 2021.10 ¥2800

ミニトマトの栽培方法を、プランターと畑それぞれの作業のポイントとともに解説。葉の病気や、虫食い、実についた傷など、心配な状況への対処法など役立つ情報も多い。観察カードやお料理レシピつき。学校で栽培されることの多い野菜を取り上げたシリーズ。他に『②キュウリ』『③エダマメ』『④サツマイモ』の全4巻。低学年生活科で利用できる。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『方言ずかん』 徳崎晃一/監修 本作り空Sola/編 山田タクヒロ/絵 ほるぷ出版 2021.10 ¥4500

方言ってなに？ いつできたの？ じゃんけんのかけ声はどう言う？ 叱られる時はなんて言われる？ 日本全国で使われている方言を、場面別、地域別に紹介するカラー図鑑。歌のなかの方言や地域の特産品、映画やアニメの方言も収録。「パソコンやぶれた」「あれ、たわんげ、とって」など、山口県を代表する方言も掲載。「方言」を楽しむための22冊のブックリスト付き。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『人間と性の絵本 2からだってステキ!』 浅井春夫/文 柿崎えま/絵 大月書店 2021.10 ¥2500

自分の体を大切にするために、体のことをきちんと知って体の権利や性暴力のことを学ぼう。人間の体や性器の仕組み、人間の誕生と成長などを、たくさんの絵でわかりやすく解説。性を科学的に知り幅広く考え、ポジティブにとらえるために作られたシリーズ。他に「1わたしってどんな人?」「3思春期ってどんなとき?」「4性は人権なの?」「5考えよう!人間の一生と性」の全5巻。

<ノンフィクション—中学生から>

『海をわたった母子手帳 かけがえのない命をまもるパスポート』 中村安秀/著 旬報社 2021.9 ¥1600

日本全国、どの自治体でも配布されている「母子手帳」。戦後の混乱期に、妊婦と幼い子どもたちを守るために考案された手帳が、どうやって日本中に広まったか、さらに、どのように世界中に広がっていったか、インドネシアで母子手帳の導入に携わった著者が、体験談を交えて解説。SDGsの目標と合わせて「だれひとり取り残されない」母子保健サービスとしての母子手帳を提唱する。

<研究書>

『司書教諭による情報メディア活用 生涯学習の扉を開くために』 西巻悦子/著 近代科学社Digital 2021.8 ¥1700

司書教諭講習科目「学校図書館メディア活用」の趣旨と内容に基づいた司書教諭養成のためのテキスト。学校図書館の情報メディアに関わる新しい課題や児童生徒の学びを指導する上で必要な知識、電子書籍導入などについて解説。パスファインダーの作成例やプレゼンテーションソフトを使った調べ方の指導例、読み聞かせ等をする際に留意したい著作権などすぐに使える活用例を紹介。

『子ども、本、祈り』 斎藤惇夫/著 教文館 2021.9 ¥1500

児童書の編集者、子どもの本の作家として、数多くの本を子どもに提供してきた著者。本書は新聞や園だより等の連載をまとめた1冊。1・2章はキリスト教幼稚園園長として園児たちとの日常生活から生まれた文章で構成。3章では著者自身の物語や絵本との思い出を、4章では子どもと物語をつなぐ大人へ向けた様々な方策を収録。4章にはおすすめの本やわらわ歌のリストも掲載。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。取書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。